

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：高水敷切下げによる環境改善の取組みについて	
水系/河川名：円山川水系円山川	河川分類：大河川
河川の流域面積：1300km ²	整備計画流量：4900m ³ /s(W=1/40) セグメント：2-2
事業：環境整備	事業開始年度 平成15年度
目標設定：定性的	段階：D(実施・施工時)
課題・目的(主な)：ワンド・たまり、池沼の保全・再生・創出、水際域の保全・再生・創出	
工法(主な)：掘削(高水敷)	
配慮事項(主な)：委員会、協議会等の開催	

背景・課題、目標設定

<背景>

円山川では、平成16年台風23号による被害を受け、激特事業において河道掘削を行っており、その際、高水敷の切り下げ高を工夫することにより、湿地を創出した。しかし、施行後のモニタリングでは、当初想定していた湿地性植物群落の定着が見られないなどの課題が見えてきており、湿地の質的向上を図るため、湿地形状の改良に取り組んだ。有識者等からなる自然再生推進委員会からの助言より、現地の保全すべき環境を把握した上で形状を決めることとし、決定に至るまでのとり組みや工夫についてまとめた。

<目標>

- ・保全すべき環境の把握と対策・工夫
- ・魚類等の生物への配慮

取り組み内容・対策例

【現地調査の実施】

湿地改良予定区間について、河川縦断方向に5mごとの調査サイトを設定し現状を把握した。
(水際全域、湿地の水際線(掘削)の縦断延長は、技術委員会にて「5m~15m」が望ましいとの意見をより、5mに設定した)

- ①「高水敷の植生」
植生図を作成するとともにサイトで植生を評価
- ②「河岸の状況」
在来植生が、崩落していないか、等で評価
- ③「水際の状況」
クロベンケイガニの営巣、水際植生の有無、等で評価
- ④「水城(河床材料、河床藪)の状況」
変化があった場合に別途評価

③「水際の状況」の評価について

- クロベンケイガニが営巣、水際にヤナギ等による葉の隠れ家(ムロ)が形成。
- 在来植生によるカバーあり。
- △ 一部在来植生によるカバーあり、一部、後発や産種。



自然再生推進委員会からの助言を受け、水際河岸の環境について把握するため調査を実施した。

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針



《ポイント》

現地調査により、保全すべき環境を抽出することが出来た事
 工事による環境への負荷を抑えることが出来た。

《今後の対応方針》

- 湿地機能の維持を継続的に実施していく
- ・ 土砂の堆積除去
- ・ 外来植物の駆除
- ・ モニタリング調査
- ・ 地域との連携と湿地の利活用 など

備考